

高遠城の歴史

高遠城は三峰川と藤沢川にはさまれた河岸段丘の端に造られた平山城です。本丸を囲むように二ノ丸、南曲輪、三ノ丸などの曲輪を配した環郭式と呼ばれる縄張りです。

高遠は古くから諏訪氏の勢力圏にあり、南北朝の頃（14世紀）から諏訪氏の支族である高遠氏が治めていましたが、戦国時代の天文年間（1532～1555）には、甲斐（今の山梨県）の武田信玄が支配するようになりました。それは、高遠が、諏訪から伊那谷への交通の要所にあり、今の静岡県にあたる駿河や遠江に進出するためにも重要な地点だったことによります。

高遠を支配した武田信玄は、高遠城を拡張するために、天文16年（1547）に「鐵立て」を行いました。この時指揮をとり縄張りをしたのが山本勘助であったと伝えられています。後にも大規模な改修がされているため、信玄の頃の城の姿は分かっていませんが、曲輪の周囲にめぐらされた深い空堀や土塁から、地形を巧みに利用して戦いに備えた城の姿をうかがうことができます。

武田氏による高遠支配は35年間続きましたが、高遠城は南信州支配の拠点として重視されたため、城主には、諏訪（武田）勝頼や仁科五郎盛信など信玄の近親者が就きました。中でも、天正10年（1582）、仁科五郎盛信が、織田軍を迎え撃った壮絶な戦い（高遠城の戦い）は、現在に語り継がれています。

江戸時代の高遠城は、高遠藩の政庁として、保科氏、鳥居氏、内藤氏の3氏、約270年間にわたり、地域の政治・経済・文化の中心となりました。

戦国時代から江戸時代のはじめ、高遠城の大手は、城の東側にありましたが、鳥居氏の時代に、西側に変更されたといわれています。街道沿いに発達した西高遠の門前町を取り込むように、近世城下町の建設と城郭の大改修が行われました。現在の高遠城跡はこの時に整備された曲輪配置をそのまま残しています。

江戸時代になり、寛永8年（1631）に高遠藩主となった保科正之は、2代将軍徳川秀忠の子でした。正之は、高遠から最上（山形）を経て会津へ移り、幕府を支え、会津松平家の藩祖となりました。

江戸時代の中ごろ、元禄4年（1691）に鳥居氏に代わって藩主となった内藤氏は、明治のはじめまで、8代約180年間にわたって高遠藩主をつとめました。

明治維新で高遠城は廃城となり、本丸御殿や門、橋など城内の建造物はすべて取り壊され、石材や立木まで民間に払い下げられました。そして、明治8年（1875）に城跡の公園化が決まり、地域の人々が集う「高遠公園」となりました。

昭和48年（1973）には国の史跡に指定され、平成18年（2006）には日本百名城の一つに選ばれました。現在は都市公園「高遠城址公園」として多くの人々に親しまれています。

高遠城跡とタカトコヒガンザクラ

高遠城跡内の桜は、明治9年（1876）頃に旧藩土手の手により、城下の「桜の馬場」から移植されたことに始まり、代々大切にされてきました。現在1500本を数えるこれらの桜は「タカトコヒガンザクラ」という固有種で、花びらの赤みが強いのが特徴です。昭和35年に「高遠のコヒガンザクラ樹林」として長野県の天然記念物に指定されています。春を迎えた高遠で、城一山をピンクに染め一斉に咲き誇るコヒガンザクラは、まさに「天下第一の桜」です。



■高遠城跡（高遠城址公園）ご利用案内

【休園日】 年中無休

※観桜期間のみ入園時間が決められています。

詳細はお問合せください。

【入園料】 無料（※観桜期間のみ有料）

【駐車場】 有（※観桜期間のみ有料）

■アクセス

【お車】 中央道伊那インターよりR361 経由 約30分

中央道諏訪インターよりR152 経由 約50分

【公共交通機関】

JR 飯田線「伊那市駅」下車の後、JR バス高遠線に乗り換え「高遠駅」下車、徒歩約15分



■お問い合わせ先



一般社団法人 伊那市観光協会（伊那市役所内）

長野県伊那市下新田 3050 番地 Tel.0265-78-4111（代）

伊那市教育委員会 生涯学習課 文化財係

長野県伊那市下新田 3050 番地 Tel.0265-78-4111（代）

伊那市立高遠町歴史博物館

長野県伊那市高遠町東高遠 457 番地 Tel.0265-94-4444

国指定史跡
日本百名城

高遠城跡



寛保3年（1743）成立の絵巻『高遠探勝』より高遠城本丸周辺を描いた「郭上観」の場面

高遠城歴代城主

※（ ）内は高遠城時代

戦国時代	高遠氏	高遠満継 高遠頼継	
	武田氏	秋山虎繁 諏訪勝頼 武田信廉 仁科五郎盛信	
織豊時代	毛利氏	毛利氏 保科正直 毛利氏（勝斎） 京極氏（岩崎左門重次）	
	保科氏	保科正光 保科正之	
江戸時代	鳥居氏	鳥居忠春 鳥居忠則	
	内藤氏	内藤清枚 内藤頼卿 内藤頼由 内藤頼尚 内藤長好 内藤頼以 内藤頼寧 内藤頼直	

仁科五郎盛信

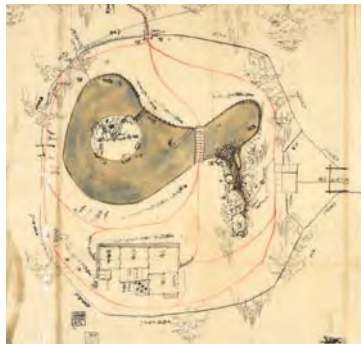
保科 正之

内藤 頼寧



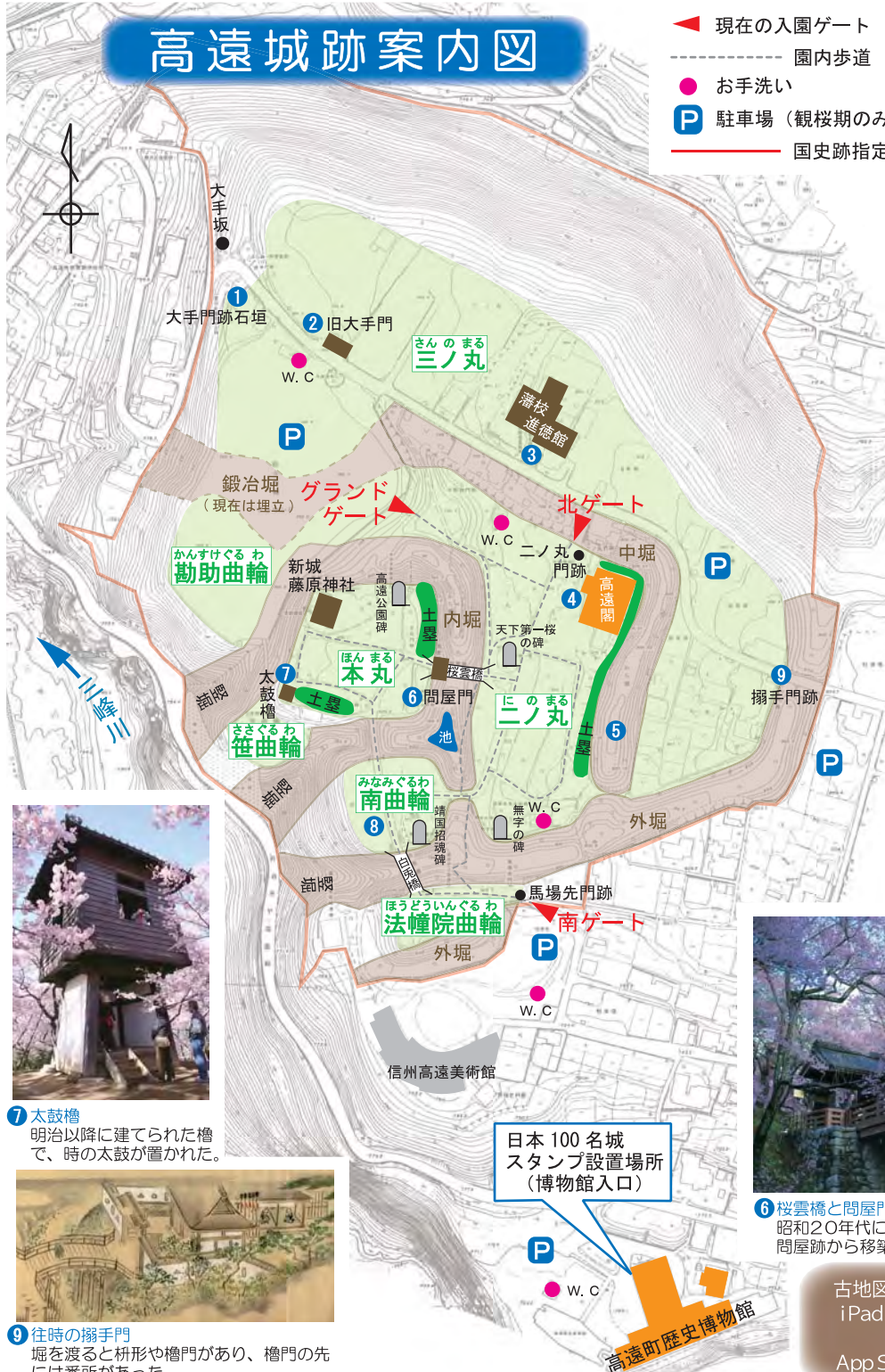
高遠城跡出土資料

近年行われている発掘調査では、輸入陶磁器や江戸時代の陶磁器、導水用の土管など、城内の生活をうかがうことができる多くの品が出土しています。



8 南曲輪の大庭園

江戸時代、曲輪の中央には滝から水が流れ入る大きな池があり、数寄屋造りの茶室もあった。遠く中央アルプスを望み、梅、山吹、ツツジ、カキツバタ、九輪草など季節の花が咲く庭は、大名の居城にふさわしい大庭園だったが、明治時代の廃城の際に失われてしまった。



7 太鼓櫓

明治以降に建てられた櫓で、時の太鼓が置かれた。



9 往時の搦手門

堀を渡ると枅形や櫓門があり、櫓門の先には番所があった。

日本 100 名城
スタンプ設置場所
(博物館入口)

高遠町歴史博物館

現在の入園ゲート

園内歩道

お手洗い

駐車場（観桜期のみ有料）

国史跡指定範囲



1 大手門跡石垣

高遠城に残る唯一の石垣。



2 旧大手門

廃城後に城外に移築された大手門。移築の際に縮小されている。



3 藩校進徳館

万延元年（1860）開校
儒学教育を行った学問所。



4 高遠閣（国登録有形文化財）

昭和 11 年（1936）建築の休憩所。



5 空堀（中堀）

廃城後、3m 以上埋まっている。



6 桜雲橋と問屋門

昭和 20 年代に城下町の問屋跡から移築された門。

古地図を見ながらお城を歩く
iPad / iPhone / Android 用アプリ
「高遠ぶらり」好評配信中！
App Store / Google Play から無料ダウンロード！！